

# 福祉教育セミナー

日時 令和2年1月29日(水)  
13時30分～16時  
会場 岩見沢広域総合福祉センター



## 実践発表 「指定校としての福祉の学習、ボランティア活動」

岩見沢市立南小学校  
教頭 島 恵司 氏

- \*ユニセフ募金
- \*慰問活動
- \*人権教室
- \*感謝のお手紙
- \*あいさつ運動
- \*交流給食・異学年交流活動
- \*シャッフルティーチャー
- \*ペットボトルキャップ・プルタブ回収



岩見沢市立清園中学校  
教頭 曾根 秀彰 氏

- \*クリーン作戦
- \*歳末たすけあい運動
- \*体験的な学習
- \*ふるさと教育
- \*薬物乱用防止教室・情報モラル教室・性の指導
- \*除雪ボランティア(今年度は中止)
- \*ペットボトルキャップ・リングプル回収、寄贈

## 講演



岩見沢視力障害者福祉協会  
会長 佐々木 栄一 氏  
「私と点字」

～教育の必要性～

## 体験「点訳体験」～名刺をつくってみよう 講師 岩見沢市点訳赤十字奉仕団

- 1 点字の歴史
- 2 点字の概要
- 3 書き方の実践
  - ・五十音順の練習
  - ・数字の練習
  - ・短文の練習



やってみよう!

(講師のお話では…) 小学校点訳体験学習を毎年行っていますが、先生方に講習ということで緊張したそうです。小学生と同じく点字器を使って紙に点字を打ってもらい、五十音順・数字・短文を練習したあと自分の「名刺」を作成しました。

いつも使用している「ライトプレーヤー(タイプ)」「パソコン」を展示、使い方を体験し、毎月作成している「広報いわみざわ」「議会だより(年4回)」「まなみ～る」等を、印刷する点字用プリンターも動かして見てもらいました。初めて見られる方が多かったので、知っていただいととてもよかったと思いました。

## ボランティアセンターからのお知らせ

ボランティア活動に関する相談は、ボランティアコーディネーターがお受けします。あなたも、ボランティア活動に参加しませんか。連絡をお待ちしています。相談日は、月曜日から金曜日まで。10時30分から15時30分。土・日・祭日・お盆・年末年始はお休みします。



「おもしろい」の発行月が変わります。

×月→7月  
×月→11月  
3月は今までと同じです。  
よろしくお願ひします。

# おもしろい

〒068-0031 岩見沢市11条西3丁目 岩見沢広域総合福祉センター  
岩見沢市ボランティアセンター TEL・FAX 25-5516  
岩見沢市社会福祉協議会 TEL 22-2960

## ボランティア活動者研修会



52名参加

### 参加者の感想

★ 80代 女性  
AEDの実技、思った以上に簡単でした。でも、力の入れ方では息苦しくなるなど、実際に出来るかな?と思いました。

★ 70代 女性  
救急の必要性を身をもって感じました。心肺蘇生によって命が助かる率が高い為、このような体験が出来てとても良かったです。

★ 60代 女性  
心肺蘇生法の体験はとても良かったです。見ているのと、実際にするのは違う事もわかり、一度だけではなく、何度でも体験は必要だと思いました。

★ 30代 男性  
救急処置でのAEDの使い方や、人工呼吸のやり方は、とても参考になった。

★ 70代 女性  
胸骨圧迫の方法、AEDの使い方が大変勉強になりました。ただ、実際にそういう場面に出会ったとき、冷静に対応できるかは?難しかったです。隊員の方たちの丁寧な説明が素晴らしいかったです。

とき 令和2年2月21日(金) 13時30分～16時  
ところ 岩見沢広域総合福祉センター 2階研修室1・2・3  
主催 岩見沢市社会福祉協議会・岩見沢市ボランティアセンター

内容 ①講習 「救命に必要なAEDの使い方について」  
岩見沢消防署 工藤 寛仁さん  
桑崎 淳さん  
杉山 拓也さん

※工藤さんから、心肺蘇生の重要性などのお話を聞き、その後講師の方3人が先に実践し、AEDを持ってくる人、救急車を呼ぶ人、AEDを使用する人に分かれ、蘇生法・AEDの使用方法をわかりやすく説明をしてもらいました。そして、参加者は3グループに分かれて、それぞれAEDの使用、人工呼吸法、心肺蘇生法を体験しました。

②「NPO・ボランティア団体対象の助成制度について」  
北海道労働金庫岩見沢支店  
副支店長 石川 拓也さん

※労金でおこなっている、NPO・ボランティア団体を対象とした助成制度の説明がありました。

③事務局から、令和2年度のボランティア登録・ボランティア活動保険の加入説明。





# やさしい在宅介護講習会

令和元年10月24日・11月1日(全2回)

岩見沢広域総合福祉センター

参加者 11名



認知症や身体的介護が必要になった家族等を、自宅で介護するために必要な知識や技術を学びました。講話では、住み慣れた地域で孤立せずに生活できるように、地域での見守りと支援が必要な事。様々な福祉サービスの一つ、介護保険の利用方法や、居宅介護支援の実態を知る事ができました。又、寝たきり状態になった時の、床ずれ予防やケアが大切な事。車椅子・ポータブルトイレなど使用目的や状況にあった便利な福祉用具や、色々なおむつの正しい使い方も学び、ベッドでの起き上がり介助や、車椅子への移乗の体験をしました。二日間の講座を通して、様々な福祉サービスや用具を利用し工夫をして、又地域の人達からの支援を頂く事で介護の負担を少なくし、気持ちに余裕をもった在宅介護が出来るのではないかと感じました。



<p><b>講話</b>「在宅支援」 ～見守りと支援で支える在宅生活～ 岩見沢市ボランティアセンター センター長 内海 泰子氏</p>	<p><b>講話</b>「介護保険の利用について」 岩見沢市社会福祉協議会 居宅介護支援課 課長 青柳 洲明氏</p>	<p>令和元年度 やさしい在宅介護講習会</p>
<p><b>体験</b>「介護に係る福祉用具の体験」 ニック株式会社 北海道中央営業所</p>	<p><b>講話</b>「在宅介護における皮膚・排泄ケアについて」 岩見沢市立総合病院看護部主任 皮膚・排泄ケア認定看護師 小原 菜穂氏</p>	
<p><b>実践</b>「ベッドからの移乗など」 岩見沢市社会福祉協議会 訪問介護課 課長 天崎 由紀子</p>	<p><b>講話</b>「おむつの正しい使い方」 白十字株式会社札幌営業所</p>	

# 福祉体験学習



第二小学校の体験の様子

令和元年度 実施実績	
車椅子体験	延5校
手話体験	延6校
ガイドヘルプ体験	延5校
点訳体験	延1校
高齢者疑似体験	延4校



《3年生 ガイドヘルプ体験》《4年生 手話体験》《5年生 車椅子体験》

## ♡♡♡♡ 体験の感想 ♡♡♡♡

- 《手話体験》 ☆手話を覚えて、耳の聞こえない人と手話で話したいです。 ☆手話で自己紹介が出来るようになってうれしい。 ☆通訳もできるようになりたいです。
- 《高齢者疑似体験》 ☆軍手をはいて、はしで物をとる事がむずかしかった。 ☆おばあちゃんは耳が遠いので、何回も聞かれると怒っていたけどこれからは気をつける。 ☆困っている高齢者がいたら、声をかけ助けてあげようと思う。体験はとても役にたった。 ☆老化はとめる事が出来ないの、年をとっても運動をして老化を遅らせる。 ♡♡♡♡



# 男性のための料理教室

おやじのための“Cooking”



**目的** 男性が「食」に興味を持ち、自分で作る楽しさとバランスの取れた食事の重要性を認識するとともに、料理を通しての仲間づくり、家庭生活での自立支援を目的に「男性のための料理教室」を開催いたしました。

令和元年11月15日(金)  
9時30分～12時30分  
岩見沢市生涯学習センター  
「いわなび 料理講習室」  
参加者8名(年代60代～80代)



大丈夫ですか？



手元に気を付けてね



順調ですね



出来ました

**メニュー**

- ・炊き込みご飯
- ・大根と豚バラ肉の煮物
- ・ほうれん草とシメジの梅しょうゆ和え
- ・ミルク豆腐
- ・味噌汁



いただきます！

## 参加者の声

- ・皆さんで楽しく作らせてもらいました。大変おいしかった。
- ・初めての体験で楽しかった。
- ・私の班は2人だったが、大変よくできたと思う。
- ・皆さんと一緒に楽しく作ることが出来ました。初めて参加させていただき、ありがとうございました。
- ・初心者のため、勉強になりました。



# 空知地区ボランティア活動セミナー

令和元年11月13日(水)  
13時00分～16時  
岩見沢市文化センター  
「2階 音楽室」



- 講義1** 「北海道胆振東部地震における経験から」  
講師 松田 敏彦氏(厚真町社会福祉協議会 事務局長)  
ほぼ満席の中で「災害ボランティアセンターの実践報告」として62枚ものスライドを使用し、地震の被害状況・センターの設置・活動・行政との連携・町社協との位置づけ・課題と問題点等に関して熱心に語ってくれた。
- 講義2** 「災害時における災害ボランティアセンターの設置・運営について」  
講師 宮川 良介氏(北海道社会福祉協議会地域福祉部地域福祉課 主査)
1. 災害、特に地震・津波・台風について 「いのちを守るカドリル」の演習
  2. 災害ボランティアについて 歴史・機能・他の団体との連携
  3. 受援力を高める！ 防災ボランティア活動の多様な支援活動を受け入れる地域の「受援力」がボランティアの「支援力」とともに被災地では欠かせない。日ごろからの「受援力」を高める活動が望まれる。